

2024年度 学校評価

1. 教育目標

- ・元気で明るく逞しい子ども
- ・人に優しく、自分が大好きな子ども
- ・様々なことに興味関心を持ち、探求心のある子ども

2. 目標達成のため本年度の重点

【健康を守る保育】

- 大きな怪我、事故なく保育をすることが出来た。外出後、食事前の手洗い・消毒を日々しっかり行う事により、子ども達も習慣化され、声を掛けられなくても自分から服の袖をまくり、手洗いを進んで行うようになった。
- 子どもたちの小さな変化を逃さないように視診を行い、職員同士で情報共有を図ることができていた。感染症についてはご家庭の協力は必要不可欠なので、「病気をうつさない・うつされない」ために各家庭に協力してもらいたいことを引き続き伝えていく必要がある。
- 周りを見ていないことでのぶつかる事故が多かった。感覚統合や身体のコントロールなどの課題がみられると思うので、それらについての勉強が必要と感じた。また、怪我に繋がらないように環境を整えることもさらなる工夫が必要。

【異年齢との関わりを大切にする保育】

- 今年で2年目となった以上児・未満児との交流時間「ふれあいタイム」では、月を重ねる事に、子ども達も慣れ、自分から以上児さんの所へ行く姿が増えた。4月当初から比べると、泣いてしまう子ども減り、楽しんで交流する姿が見られる。来年度も続けていきたい。
- 一年経験したことで職員から「より楽しめるためにはこうした方がいいのではないか」という、意見も出てきて今後のこの会の持ち方に期待ができる。
- 子どもたち同士の交流もいいが、以上児・未満時の職員が交代して普段接することの少ない子どもと触れ合う時間も少しずつできるといいのではないか。
- 普段の縦割り保育の中でも、あえてお世話をする機会を作り、その中で子どもたちに対して、もう少し「こうするといいよ」と接し方を具体的に教えていく必要を感じた。

【人権を大切にする保育】

- 不適切保育についての園内研修を行うことで、普段の保育を振り返る一つのきっかけとなり、ひとりひとりの意識改善を図ることができた。今後も引き続き子どもたちが自信をもって過ごし、安心して過ごせる環境づくりができるように職員同士で協力し合いたい。
- 子どもたちの話に耳を傾け、子どもたちの感じていることを職員同士で共有することができてよかった。

【共に育ちあう保育】

- 日々の保育の中で、保育者が子ども達一人ひとりの良い所を自然と伝えていると、周りの子ども達もよく聞いて、「〇〇くん、すごいね」「こんなこともできるのだね」等、自然とお友達同士で伝えている姿が見られる。同じクラスの仲間として認め合い、その子の良さ、頑張りを子ども達自身から気づけるように今後も保育していく。
- 年長児の活動の様子を見て「年長さんみたいなことやりたい。」「年長さんみたいになりたい」と思える場面があり、年長児も「去年の年長さんがやっていたから頑張ろう。」と縦割りの良さが見られた。
- 子どもたちが友達の良さに気づき、認めることができるように職員の言葉がけも気を付ける必要がある。
- 苦手なことがある子も友達が一緒に行くことで励まされ「やってみよう」「頑張ってみよう」となる場面も見られた。また、一緒に取り組むことで少しずつ協調性も育まれていきよかった。

【保護者と共に進める保育】

- 毎日の連絡帳ではもちろん、子どもの様子等やりとりはしているが、登降園時にもお互いの顔を合わせ、連絡帳だけでは分からない保護者の気持ちを汲み取りながら、子どもの育ちについて家庭と共に進めている。
- 保護者の要求に対し、できないところは理由を含め丁寧に断り、誠実な対応をできていたと思う。どの保護者に対しても同じ対応を心掛け、丁寧にお話していくように心掛けられていた。

【地域とのかかわりを大切にする保育】

- 山車行列では地域の活性化に微力ながら協力することができたと思う。
- グループホームへの慰問を通して高齢者との触れ合いを楽しむことができた。
- 地域のクリスマス会や木育広場、ハロウィン、キッズパフォーマンスなどの多くのイベントごとに職員が参加し、スタッフとして貢献し、地域の方との交流を図ることができた。
- 小学校や保健師さん療育機関などとの連絡をとり、対象となるお子さんの情報共有ができた。

3. 評価項目（5段階評価）

評価項目	結果	内容
保育の計画性	4	<ul style="list-style-type: none">● 各クラス、年間計画に沿い、月の個別目標、週案を計画している。子ども達の成長、発達に合わせて保育活動を行えている。指定された期日までに各クラスの週案を提出し、事前準備も行っていた。● 異年齢交流や避難訓練など職員同士での情報共有をしてスムーズに行うことができた。● 各学年の保育をお互いに見せ合う機会を持つことで、お互いの保育の振り返りとなりよかった。

<p>保育の方法と展開</p>	<p>4</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 複数担任の場合、声を掛け合いながら保育を進めることができていた。経験年数の多い保育者の声掛けや、保育の進め方を見て、若い保育者も良い部分を取り入れていく姿も見られた。クラス活動の際、人数が多いクラスだと、子どもたちを待たせてしまうことが多いので、もっと子ども達が動き、活動に参加できる時間を増やしていけるようにしていきたい。 ● 各学年工夫された保育を行うことができていた。また前年度とは違った内容で様々な活動を取り入れることができていた。 ● 自由遊びの中での環境づくりにも力を入れ、子どもたちの運動能力を伸ばし、子ども同士の関わり合いの力を伸ばしていくことをさらに意識していくとよいと思う。 ● 現状に満足することなく、さらに保育の研究を行い、子ども達の発達を促す内容の検討が必要。
<p>保育教諭としての資質向上 能力・良識・義務</p>	<p>4</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 園内研修はもちろん、地域の研修会に積極的に参加できていた。園内研修では、他の保育者からも積極的にアドバイスをもらい、より良く保育を進めて行く方法を皆で考える事ができた。 今後も研修会などに積極的に参加し、保育者として技術や知識を身につけていく必要がある。 ● 行事では、担当保育者が中心となるが、皆で協力し、限られた時間の中で準備が終われる様、皆で声を掛け合い協力する事ができていた。 ● 園児のことや保護者のことなど園で知った情報を外部に漏らさないということは徹底できていると思われるが、今後も気を引き締め、気を付け合う必要がある。
<p>保護者への対応</p>	<p>4</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 登降園時には挨拶だけでなく、子どもの様子を話しながら、保護者とのコミュニケーションを取るように努めた。 保護者の家庭での養育方針を理解し、相談を受けた際は、助言をするなどし、一人ひとりの保護者に寄り添うようにしている。 連絡事項は、連絡帳だけでなく、場合によってはラインで伝えるなど、伝え漏れや連絡が遅くならないように配慮することができた。 ● 園としての方針を職員が共通理解し、伝え方に差が出ないように気を付けて対応できていたとは思いますが、より理解を深められるようにしたい。

地域・関係機関との連携	4	<ul style="list-style-type: none"> ● 子ども達の季節の製作物を地域の施設に飾って頂く機会があり、子ども達も見に行く事を楽しみにしていた。今後も続けていきたい。 <p>子どもの育ちについて気になる場合は、保健師さんに来て頂くこともあり、連携を取ることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 施設の慰問をして地域の老人の方々に喜んでもらうことができた。今後もできる範囲ではあるが続けることができたらいと思う。 ● 小学校入学前に小学校の先生の訪問があり、子どもたちの様子を知らせ情報の共有ができています。また子ども達も小学校の先生が来てくれたことで、より進学を心待ちにする気持ちが増すことができていた。 ● 保健師さんや支援センターなど対象児童のことで相談したり、情報共有ができたたり、研修の情報を知らせてもらうことができた。
研修・研究	4	<ul style="list-style-type: none"> ● 実践的な研修や他園への見学など、今後機会があれば積極的に参加し、知識・技能を身につけていく必要がある。 ● 園内研修を通して職員の連携がよりよくなってきている。 ● 研修のために自分の保育を振り返ったり、他の保育士の活動を見て学んだりできたことにより、良い刺激になったように思う。
安全管理	4	<ul style="list-style-type: none"> ● 子どもの動線を意識し、危険箇所がないか日頃から気を付けて生活した。ケガ等が起こった際は、保育者同士情報共有し、皆で気をつけて保育するようにした。 ● ほぼ全家庭に引き渡し訓練に参加していただくことができてとても勉強になった。保護者には今年度よりも早めに訓練日を伝え協力体制を整えるようにしてはどうか。 ● 今後も続けて避難訓練や不審者対応訓練・引き渡し訓練など続けていきたい。その中でもう少し子どもたちに対して紙芝居や映像などを使って避難訓練の大切さややり方を詳しく伝えていくための工夫が必要だと感じた。

4. 2024年度の総評

結果	内容
4	<ul style="list-style-type: none"> ● 各クラス、年齢に応じたクラス活動を計画・準備し、保育をする事ができていた。子どもの発達段階に応じて、手作り玩具やペープサートを準備し、子どもに提供し、楽しめるよう工夫するクラスもみられた。活動によっては、子どもを待たせてしまう事も多いので、もっと子ども達が動けるように活動の仕方を工夫していく必要がある。

	<ul style="list-style-type: none"> ● 2年目となった「ふれあいタイム」は、毎月交流する事によって、未満児の子ども達から以上児の子ども達の所へ自然と行く姿が多く見られ、お残りの時間は特に、名前を呼んだり、呼ばれたりしながら、お世話されたり遊ぶ姿が増えた。 ● 昨年度の課題だった、保育経験の浅い保育者への指導では、経験年数のある保育者とクラスを組むことによって、子どもへの対応の仕方や、活動の進め方を身近で学び、昨年度よりも保育者としてスキルアップできてきている。 ● 警察に指導をしてもらいながらの「不審者対応の訓練」では、課題も多く見つかりすぐに改善をすることができてよかった。保護者も「お迎え時に玄関でチャイムを鳴らす、名前を名乗る」ことを協力してくれてスムーズに取り組めてとても良かった。 今後も続けて避難訓練や不審者対応訓練・引き渡し訓練など続けていきたい。その中でもう少し子どもたちに対して紙芝居や映像などを使って避難訓練の大切さややり方を詳しく伝えていくための工夫が必要だと感じた。
--	--

5. 来年度課題

<ul style="list-style-type: none"> ● 今年度は手足口病が流行り、欠席者が多かった。未満児は抵抗力が弱く罹ってしまうのは仕方がないが、手洗い、消毒の徹底と、感染症が出た時は、登園基準等のお知らせをその都度保護者にしっかり伝えていく。 ● 職員同士の報連相をより充実させるために、それぞれが意識して過ごす必要がある。 ● 運動能力を獲得できる内容の保育の充実を図る。また、子ども達が活動の中で待たされることが少ないよう、職員同士の連携を図り、子ども達がじっくりと取り組める環境づくりを研究していく。 ● 研修などに積極的に参加し、自分の知識を豊かにし、保育の充実を図る。また自分のクラスのことだけでなく、「どの子ども同じマリア幼稚園の子どもでもある」と思い、職員同士アドバイスし合える関係性を築いていく必要がある。
